



審査員

木俣の 詠

よみがえる連絡船とじほんの賢沢

宇高連絡船に乗ったのは三十代の頃だった。もうぼくはモノカキになっていて、その旅の目的は高松のうどんを食べ、尽くそうという、まあ今考えれば安易なテーマだった。連絡船の船着き場には立ち喰いうどんのお店があり、人だかりがしている。取材になるからそこをまず一杯。宇高連絡船に乗ったら、甲板にもうどん屋さんがあるのでびつくりしつつまた一杯。高松港に着いたらそこにもうどん屋さんがあつて、これはただごとではないぞ、と身を、じゃなくで、胃を引き締めた。あのと宇高瀬戸内海を見ながら連絡船とうどんの旅情をかみしめたことが今は貴重な思い出だ。



審査員

織作 峰子

つながりつなげる心と連絡船

「つながりつなげる」ということがあたり前の現代において、それが当然ではなかった時代にどれだけ人々が待ち望み焦がれたことでしょうか。物・人・心…これら大切なものを、まさに連絡船がつないできました。今なお連絡船にまつわる数々の思い出をお持ちの方も多くいらっしゃることでしょ、知らない若者もいると思います。船や港など、ならではの雰囲気や味わいながら汐風のドラマを作ってください。



審査員

大西の 光

光や風をいっばい感じて、

本来、連絡船には「歌」が似合うと思うのですが、さまざま思いやイメージを「写真」に託すことでも十二分に豊かな表現がそこに生まれます。昨今は身近にあるカメラで誰もがきれいな写真を撮れるようになっていています。大海原を行く船も、みなさんの町の家族のような存在のフェリーも、みんな等しく写真でしっかり歌い上げて欲しいなと思います。船に乗り、あるいは桟橋に佇み、また穏やかな町を歩き、光や風をいっばい感じてシャッターを押してみてください！

# 撮り船フォトコンテスト

世界各地の船の写真を募集中、1人何点でも応募できます

最優秀賞賞金10万円

過去・現在の写真  
募集中  
(12月28日まで)

- テーマ 「連絡船」(連絡船の写真)
- 「連絡船と生活」(連絡船とそこで生活する人を捉えた写真)
- 「連絡船と港」(連絡船と港の風景を捉えた写真)

- 審査員 大西みつぐ(写真家) | 織作峰子(写真家) | 椎名誠(作家) | 北川フラム(瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター)
- 各賞 瀬戸内国際芸術祭2016で発表 | 最優秀賞1点 賞金10万円 | 優秀賞4点 賞金5万円 | 佳作10点程度 賞金1万円 | ニコン賞など | また受賞作品は宇野港周辺の町中にて特別展示を予定しています。
- 主催 瀬戸内国際芸術祭たまの☆おもてなし推進委員会 | 玉野市
- 共催 瀬戸内国際芸術祭実行委員会 ● 協賛 株式会社ニコンイメージングジャパン
- お問い合わせ 〒706-0002 岡山県玉野市築港1-1-3(玉野市商工観光課内)「撮り船フォトコンテスト」応募係 TEL 0863-33-5005

▼投稿・応募状況の確認はここから!

宇野港連絡船の町 検索

<http://archive.city.tamano.lg.jp/renrakusen/>

このプロジェクトでの連絡船とは

宇高・青函・関門連絡船をはじめ、フェリーや渡し船など、瀬戸内の島々を始めとする、国内外で交通や海運の手段となっている船のこと  
(大型クルーズ客船は除く)